

セコム科学技術振興財団・特定領域研究助成(防災分野)ワークショップで発表しました (2020/1/24)

テーマ：南海トラフ巨大地震
会場：サンポートホール高松

2019年1月より、東北大学災害科学国際研究所の専任・兼任教員13名を中心に、「南海トラフ地震の事前情報発表時における組織の対応計画作成支援パッケージの開発」(以下「南海トラフ地震臨時情報プロジェクト」)と題するプロジェクトが進められています(全体統括：福島洋准教授、コーディネーター：今村文彦教授)。本プロジェクトは、「南海トラフ地震臨時情報」が発表された時、自治体や企業等、社会の鍵となる組織の対応を学際的に支援し、災害軽減につなげることを目指しており、セコム科学技術振興財団(領域名「最新科学技術を用いた自然災害の被害軽減と強靱化」)の助成を受けて行われています。

2020年1月24日(金)午後、香川県高松市においてセコム科学技術振興財団のワークショップが開催され、現在上記助成を受けて研究を進めている全プロジェクト(計5つ)の代表者、および、プロジェクトに関心のある防災関係者が集まりました。各代表者はそれぞれのプロジェクトの概要と進捗状況を発表し、福島准教授(災害理学研究部門)も、南海トラフ地震臨時情報プロジェクトに関する紹介と進捗状況の共有を行いました。各発表に続き、プロジェクト横断的な意見交換も行われました。

上記ワークショップにおいて発表された複数のプロジェクトが、さまざまな最新技術を、建物単位・個人レベルなど細かくカスタマイズされた形で、かつ安価に防災に利用できるよう提案していることが確認でき、当研究所におけるプロジェクトにも示唆を得ることができました。また、1年目を終えたばかりの南海トラフ地震臨時情報プロジェクトの今後についても期待が寄せられました。普段は別の教育・研究機関でプロジェクトを進めている研究者が、一堂に会して知見を交換できる有意義な機会となりました。



福島准教授の発表